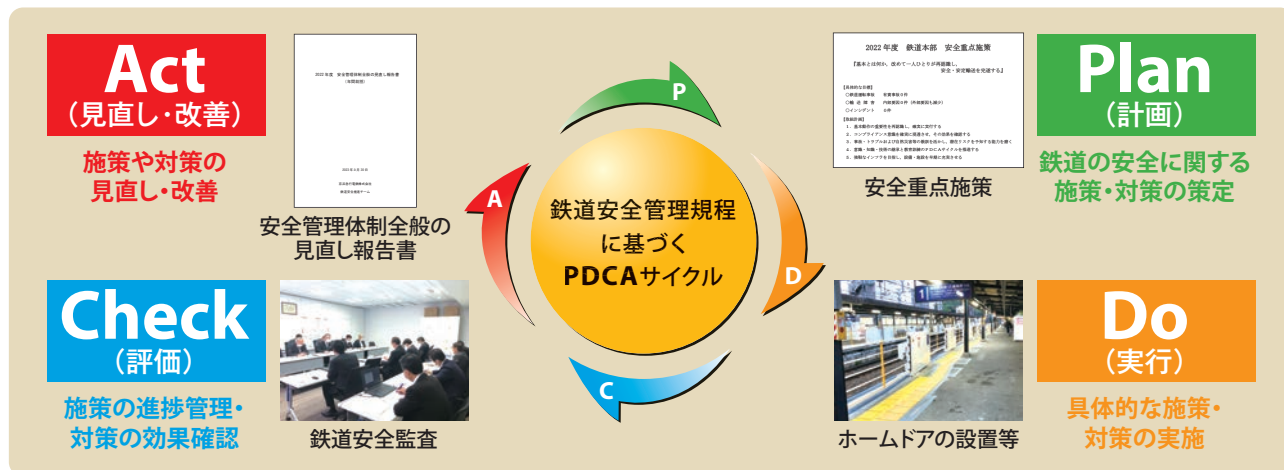




1 安全管理体制の構築・改善に向けた取り組み

安全管理体制は、計画(Plan)→実行(Do)→評価(Check)→見直し・改善(Act)の体制(PDCAサイクル)を繰り返していくことが大切です。当社では、鉄道安全管理規程をはじめ、現在行っている体制を常に見直し、改善に向けた取り組みを行っております。

◆鉄道安全管理規程に基づくPDCAサイクル



当社の安全管理体制の構築・改善に向けた取り組みを上記のPDCAサイクルに沿ってご紹介してまいります。



Plan (計画)

◆安全重点施策

目標達成への具体的な取組計画を、鉄道本部安全重点施策において定めております。

2022年度 鉄道本部 安全重点施策

『基本とは何か、改めて一人ひとりが再認識し、安全・安定輸送を完遂する』

- 【具体的な目標】
- 鉄道運転事故 有責事故0件
 - 輸送障害 内部要因0件(外部要因も減少)
 - インシデント 0件
- 【取組計画】
1. 基本動作の重要性を再認識し、確実に実行する
 2. コンプライアンス意識を確実に浸透させ、その効果を確認する
 3. 事故・トラブルおよび自然災害等の教訓を活かし、潜在リスクを予知する能力を磨く
 4. 意識・知識・技術の継承と教育訓練のPDCAサイクルを推進する
 5. 強靱なインフラを目指し、設備・施設を早期に充実させる



Do (実行)

◆安全管理体制とその方法

当社では、取締役社長や安全統括管理者、各管理者の責務や権限、管理の体制等を明確にした、鉄道安全管理規程を、鉄道事業法等に従い定めております。

そのほかにも、鉄道安全管理規程に安全にかかわる行動規範を掲げているほか、コンプライアンス規程に基づき、法令、社会規範の順守についてコンプライアンス指針等を定めております。

安全管理体制

① 鉄道安全管理規程・安全統括管理者・運転管理者

鉄道事業法等に基づき、各鉄道事業者は、鉄道の安全管理体制を確立するため、安全管理規程の制定や安全統括管理者の選任等が義務付けられております。

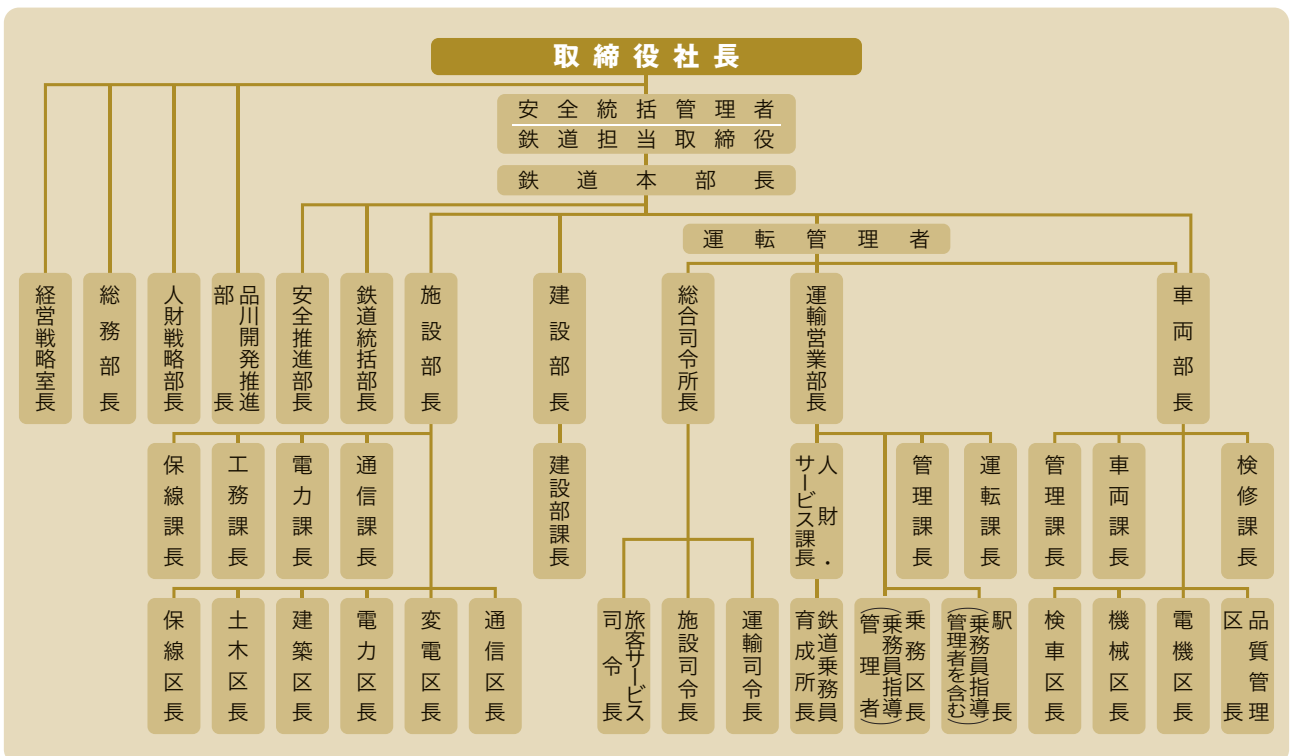
当社では、2006年10月に鉄道安全管理規程を制定、安全統括管理者、運転管理者を選任し、国土交通大臣に届け出ております。

- 1 制定日 2006年10月1日
- 2 規程名称 鉄道安全管理規程
- 3 鉄道安全管理規程の主な内容

目的等	安全管理体制を確立し、輸送の安全水準の維持および向上を図ることを目的としております。	基本的な方針等	安全に関する基本的な方針や社員の安全にかかわる行動規範を定めております。
事業の実施および管理方法	組織体制、安全統括管理者等の責務、事故発生時の対応等を定めております。	輸送業務にかかわる管理方法	運転、施設、車両等の各セクションの管理方法について定めております。

② 安全管理体制図

鉄道安全管理規程に定める、安全管理の体制は次のとおりです。



※2023年3月31日現在。



安全に関する会議等

安全管理体制を効果的に機能させるため、様々な会議や運動を実施するとともに、経営トップの意思をはじめとする鉄道の安全に関する情報を共有しながら、安全管理体制の整備の推進や継続的な見直しを行っております。

① 鉄道事故防止対策委員会

鉄道事故の原因究明や、その対策、鉄道輸送の安全の確保に関する体制の見直し、改善の検討を行い、事故防止を図るため、1977年から毎月実施しており、この委員会の結果は、取締役社長へ報告されます。

また、ヒヤリハット情報の報告や、他社における事象を当社にあてはめた対応、検証についてもこの委員会を通じて行われます。



② 鉄道安全推進チーム

2008年1月から、鉄道安全管理規程に基づく安全管理体制構築のための取り組みを推進するため、安全推進部を事務局として、各部の課長クラスの安全推進リーダーや課長補佐等で鉄道安全推進チームを組織し、安全確保に係る情報の共有、各種懸案事項の整理、分析や鉄道安全監査等を実施しております。



③ 総合司令所現業長会議

総合司令所長を中心として、駅、運転、車両、施設等の各現業長や鉄道関係グループ会社の所長等約50名が参加する会議を隔月で実施しており、現業の情報を共有しております。



④ 取締役社長・安全統括管理者による職場巡視

取締役社長や安全統括管理者をはじめとする役員および鉄道本部内の各部長が、鉄道の安全を支える現業を巡視し、現場の取り組み状況を確認するとともに意見交換を行い、社員の安全意識の高揚を図っております。



▲取締役社長巡視



▲現業社員との懇談会



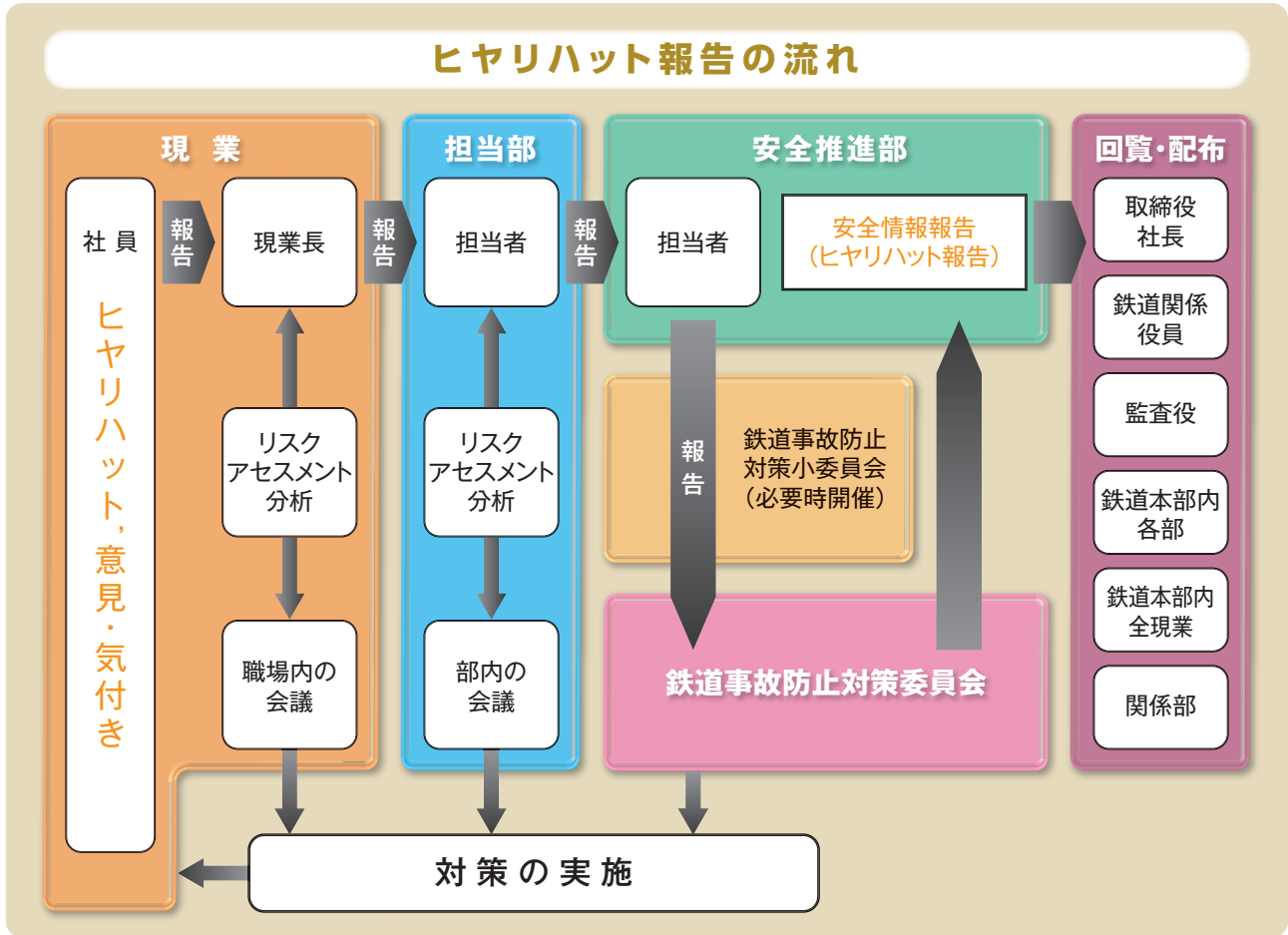
▲安全統括管理者巡視



ヒヤリハット・事故情報等の収集・活用

① ヒヤリハット

「ヒヤリハット」や安全に関する「意見・気付き」等、輸送の安全に係る情報については、体系的に集約、活用する体制を整備しております。2019年12月から「ヒヤリハット継続案件」を安全情報報告に追加し、進捗状況、対応状況が分かるようにいたしました。*安全情報報告についてはP7をご参照ください。



2022年度のヒヤリハット情報による改善例

【施設部現業社員からの意見に対する対応】

「新大津駅下りホームから線路内に立入るための階段を降りている際に、最下段の踏み板が腐食していることに気付かず転倒しそうになりヒヤリとした」という意見を受け、最下段の踏み板を撤去し、台座コンクリートをかさ上げすることにより、危険か所を改善いたしました。



▲改善前



▲改善後



② 安全情報報告

各職場の社員によるヒヤリハット情報、意見、気付きのほか、事故情報、関係官庁からの通達情報等のあらゆる安全情報を記載した安全情報報告を毎月編集し、本社・現業各部署に配布しています。これらの情報を共有することで、事故、トラブルの要因等を現業と本社が一体となって究明し対応の見直しを図るなど、安全管理体制の構築に活用しております。また、2019年12月から「ヒヤリハット継続案件」を追加し、ヒヤリハットの進捗状況、対応状況が分かるようにいたしました。

安全情報報告	
鉄道本部長指示事項	P.3
鉄道運転事故その発生事業	P.5
ヒヤリハット情報	P.21
OCヤリハット情報	P.21
OCヤリハット継続案件	P.25
OCヤリハット発生情報	P.51
連続・複発事故関係情報等	P.53
鉄道本部長指示・総評	P.57

③ 改善提案制度

各職場における業務の向上、改善に関する提案を通じて、事故防止や労働安全衛生の改善を行っております。2022年度は、運輸営業部京急久里浜駅による「急病人等お客さま対応方掲出およびパーテーションの活用」が、安全部門最優秀提案として表彰されました。

急病人等お客さま対応方掲出およびパーテーションの活用

2022年度業務改善部門「最優秀提案賞」受賞

救護したお客さまが、新型コロナウイルス感染症に感染していたことが後日判明するという事象が発生しました。幸い社員に感染者は出なかったものの、急病人等のお客さま対応については、お客さまと社員相互に感染リスクがあります。

本提案は、駅舎内に急病人、怪我人等対応時の注意点を掲出することで、社員の感染防止対策への意識付けを行うとともに、事象発生時、安全的確かつ迅速に対応できるようにしました。

また、ハンガーラックにビニールシートを貼り付けた飛沫防止パーテーションを作成、常置し、急病人、怪我人等のお客さま対応時に使用することで、お客さまと社員相互の感染リスクを低減させました。

運輸営業部 京急久里浜駅



重大な事故等への対応

① 規程類の整備

東日本大震災および追浜～京急田浦駅間で発生した土砂崩落に伴う列車脱線事故を踏まえ、それまでの規程類を統合し、改善を加えた形で、事故、災害対応を定める規程を2013年7月に制定いたしました。

併せて、降雨、暴風、地震、津波、火災等、様々な状況に応じた規程類を整備し、事故、災害に備えております。





法令順守

① 鉄道安全管理規程【行動規範】

鉄道安全管理規程に、全社員の安全にかかわる行動規範を定めております。

安全に関する行動規範(鉄道安全管理規程から抜粋)

- 1 安全の確保を最優先とし、一致協力して輸送の使命を達成することに努める。
- 2 輸送の安全に関する法令および関連する規程(本規程を含む。以下「法令等」という。)をよく理解するとともにこれを遵守し、厳正かつ忠実に職務を遂行する。
- 3 常に輸送の安全に関する状況を理解するよう努める。
- 4 職務の遂行にあたっては、憶測によらず確認の励行に努め、疑いのある場合には、最も安全と思われる取り扱いを行う。
- 5 事故、災害等が発生した場合は、人命救助を最優先に行動し、すみやかに安全適切な処置をとる。
- 6 情報は漏れなく正確、迅速に伝え、その共有化を図る。
- 7 常に問題意識を持ち、業務の見直しが必要な場合は、積極的に対処する。

② 京急グループ・コンプライアンス指針

京急グループでは、法令や社会規範に則り、京急グループを取り巻くすべての皆さまからの信頼にこたえ、企業市民として期待される社会的責任を果たすために、コンプライアンス規程に基づき、「京急グループ・コンプライアンス指針」、「京急グループ・役員および従業員行動基準」を策定しております。また、それらの主旨を常に意識し行動できるよう、社員全員が指針および基準を記載したカードを携帯しております。



京急グループ・コンプライアンス指針(抜粋)

お客さまに対して

お客さまの豊かな生活のために、安全で、満足を得られるサービス・商品の提供に努めます。

京急グループ・役員および従業員行動基準(抜粋)

お客さまに対して

私たちは、常にお客さまの安全を最優先に考え、サービスや商品を提供します。

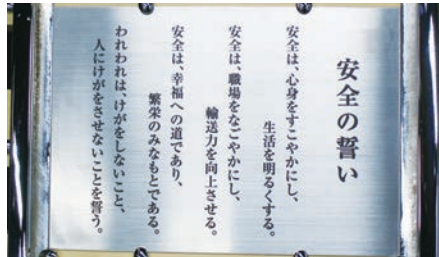
※京急グループ・コンプライアンス指針、京急グループ・役員および従業員行動基準は、当社ホームページでもご覧いただけます。
<https://www.keikyu.co.jp/ir/policy/compliance.html>



社員教育

① 「安全の誓い」の唱和

社員の労働安全衛生意識の高揚を図るため、毎月25日を安全衛生日として、朝礼や点呼時などに「安全の誓い」の唱和を実施しております。



▲事故資料展示室に掲げられたモニュメント



▲営業センターでの新入社員による唱和

② 事故資料展示室の整備・教習

過去の鉄道事故の資料を通じて、事故、災害対応の体験を共有し、危機感を高めるとともに事故からの教訓を学ぶ、社員専用の教習施設として、事故資料展示室を2008年12月に整備いたしました。その後、継続してビデオやスライド等の資料を拡充しております。

それらの資料をもとに、鉄道本部各部を中心とした社員や関係者が教習を受けております。今後も、この資料室を積極的に活用してまいります。

※社員研修施設のため、一般公開は行っておりません。



③ 安全に関する講演会

安全に対する意識、知識の向上を図るために、主に管理・監督者層と若年層の社員を対象として、外部講師を招き、講演いただいております。

2022年度は、2021年7月26日に京急久里浜駅において、列車が白杖をお持ちのお客さまの手を扉に挟んだまま発車、お客さまが転倒しお怪我をさせてしまう事故を発生させてしまったことを受け、2021年度に引き続き、横須賀市点字図書館、横須賀市視覚障害者協会のご協力のもと2022年5月26日に「視覚障がい者研修」を実施いたしました。



▲鉄道乗務員育成所での視覚障がい者研修

④ 職場内教習の実施

各現業においては、年間計画に基づき、机上、実習を併せた職場内教習を毎月行い、知識や技術の向上に努めております。この教習では、事故防止や異常時の取り扱い、ヒヤリハット情報を活用した教育等を実施しております。



⑤ 睡眠管理に関する教育の実施

生活習慣の改善を図るため、各乗務区では睡眠改善プロジェクトを実施しています。毎日の乗務員による睡眠管理および年2回全乗務員が睡眠教習を受講し、睡眠に関する正しい知識と体調管理の重要性について理解を深めています。管理職による睡眠インストラクターの資格取得など、職場での継続的取り組みを行っております。





⑥ 乗務員の養成

当社の乗務員は、運転士367名、車掌369名(2023年3月16日現在)が在籍しております。

運転士の養成は、国土交通省の指定を受けた動力車操縦者養成所である運輸営業部人財・サービス課鉄道乗務員育成所が行っており、学科4か月、技能6か月の計10か月にわたる講習を行い、専門的な知識を習得させております。また、車掌も同様に、車掌業務に必要な知識について、学科1か月、技能2か月の計3か月の講習を行っております。

当社では運転士教習用に実物大の模擬車両を使用した運転シミュレータを1997年に、CG画像でドア操作体験ができる車掌シミュレータを2006年に導入し、乗務員の知識、技能のさらなる向上を図っております。また、運転シミュレータに関してはC-ATSや踏切道防護システムに対応する改修を行っております。

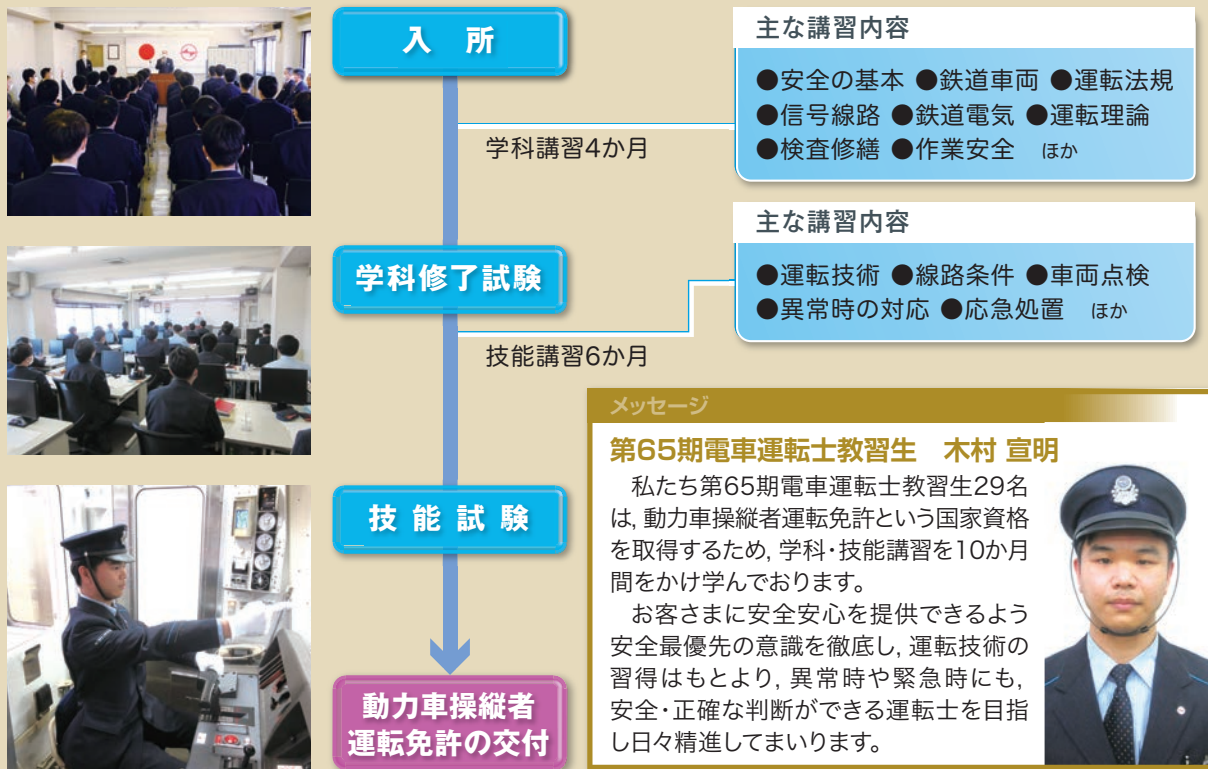


▲運転シミュレータ



▲車掌シミュレータ

鉄道乗務員育成所入所から動力車操縦者運転免許取得までの流れ



⑦ サービス介助士の資格取得の取り組み

お客さまの身になった、安心して快適なサービスを提供するため、駅係員、乗務員全員が「サービス介助士」の資格を取得しており、サポートを必要とされるお客さまに、安心と信頼を提供しております。





⑧ 普通救命講習の実施

全駅にAED(自動体外式除細動器)が設置してあり、駅係員や乗務員が普通救命講習を受講しております。さらに、定期的に駅内教習等において教習を行い、緊急時に備えております。



サービス介助士・普通救命講習修了者の取得表示

駅係員、乗務員全員がサービス介助士の資格を取得しております。また、サービス介助士、普通救命講習を修了した有資格者であることが一目でわかるよう、名札に表示しております。



⑨ 線路内作業の安全性向上に向けた取り組み

線路内作業の更なる安全性向上のため、部門が異なる現業社員間における意見交換会を実施しております。2022年度は、運転士と線路内作業員(施設部現業社員)が相互に、線路内において接近する列車の見え方と、運転士目線における線路内作業員の列車待避状況の見え方を各々体験してから意見交換を行い、安全確保に向けて認識を合わせるとともにお互いの業務に対する理解度向上を図りました。



▲運転士の列車待避体験



▲意見交換会

⑩ 線路内歩行訓練の実施

触車事故防止のため、職場内教習の一環で全駅係員が線路を歩行して安全な待避場所および危険か所を把握しております。



⑪ 保守作業員等の教育

車両、施設係員に求められる技術力の向上を図ることを主な目的として、金沢検車区内に教育訓練線を設置しております。その中には、カント(傾斜)をつけた脱線復旧訓練線も設置しております。年間計画に基づき、これらの施設を活用し、知識、技術力のレベルアップを目指した様々な教育訓練を実施しております。



▲左:カント(傾斜)をつけた脱線復旧訓練線
右:教育訓練線

メッセージ

新町検車区 戸辺 幸輝

私は新町検車区に配属されてから6年になり、主に鉄道車両の検修作業を担当しています。私が所属する月検査A班では3月を超えない期間ごとに運転台、制御器、パンタグラフ等の状態や機能検査を行い、必要に応じて修理、交換を行います。

毎月行われる職場内教習は、点検手順の再確認や自分の知らない新しい知識を身につけることができ、安全意識を向上させる大切な場です。

これからもお客さまに安心してご利用いただけるよう車両の検修作業に努めてまいります。





各種訓練の実施

重大事故に対処すべく、日ごろから訓練を実施することが大切ですが、当社では、万一の重大事故や地震発生を想定した訓練を定期的 to 実施しております。

① 鉄道事故総合対応訓練

万一、重大事故が発生した際に迅速に対応できるよう、毎年秋に鉄道事故総合対応訓練を実施しております。2022年度は、「暴風雨の影響により、線路内に土砂および倒木が流入、走行中の列車が支障物に乗り上げ脱線し、周辺の各施設に被害が発生する」という設定で復旧訓練を実施するとともに、ベテランから中堅や若年層社員への技術継承も行いました。

なお、2022年度から「負傷された方への対応」や「周辺住民への対応」など、実際の事故現場では復旧以外にも様々な対応が必要であり、これまでの訓練を更にバージョンアップさせ、総合的に対応事項を確認する意図を込め、訓練名称を「鉄道事故復旧訓練」から「鉄道事故総合対応訓練」に変更いたしました。

- 1 実施日 2022年10月31日
- 2 場 所 京浜急行電鉄(株)金沢検車区
- 3 参加人数 約180人



② 鉄道本部防災訓練

大規模地震を想定した訓練として、毎年防災週間に実施しております。2022年度は、「南海トラフ地震に関する情報が発表された」ことを想定し、地震発生を予期した初動対応型訓練、その後地震が発生し、災害が起きたことを想定する発災対応訓練を実施いたしました。今回も新型コロナウイルス感染症対策として、鉄道本部対策本部を2拠点に分け、三密回避を図りました。また今回は、駅間に列車が停止したことを想定し、お客さまの避難誘導のため次駅まで運転する訓練を新たに実施しました。

併せて、京急グループの取り組みとして、本社内に危機対策総本部を設置し、WEB会議システムを使用して京浜急行バスや川崎鶴見臨港バスと運行情報を相互に共有する訓練を実施いたしました。

- 1 実施日 2022年9月1日
- 2 場 所 当社線全線



▲鉄道本部防災訓練(1拠点目)

▲鉄道本部防災訓練(1拠点目)

▲鉄道本部防災訓練(2拠点目)



③ テロ対策訓練

鉄道を狙ったテロ等が発生した際に、迅速な対応が取れるよう、お客さまの避難誘導体制や、警察、消防等との連絡通報協力体制を確認するため実施している訓練です。2022年度は、2021年に他社で発生した車内刺傷事案を受け、「走行中の列車内の旅客が突然刃物を持ち出し、注意した旅客と口論になり、仲裁に入った旅客を含む複数名がケガをした」、「車両のドアがホームドアからずれた状態で停止し、車内のお客さまの避難誘導に支障がある」状況を想定して訓練を実施いたしました。

また、訓練終了後、警察から、各種犯罪行為の動向や、酩酊者への対応、防具の使い方等について講話をいただきました。

- ❶ 実施日 (1)2022年7月21日
(2)2023年2月2日
- ❷ 場 所 (1)大師線京急川崎～小島新田駅間および京急川崎駅
(2)本線京急蒲田～神奈川新町駅間および京急蒲田駅
- ❸ 参加人数 (1)約130人
(2)約130人



▲京急川崎駅での訓練の様子



▲京急蒲田駅での訓練の様子



④ その他の訓練

各現業区における自主的な取り組みも含め、各種訓練を積極的に実施しております。大津波警報発令時における津波避難誘導訓練や、駅係員や乗務員による実設訓練、運転業務に携わる駅係員に対し実際に車両を走行させて行う実車訓練等を実施いたしました。

なお、例年実施している振替輸送受託時における改札規制訓練は、2022年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、中止いたしました。



▲施設部合同技能訓練



▲異常時復旧訓練



▲実車訓練

※P4～13でご紹介した取り組みのほか、様々な安全対策を実施しております。詳細はP16以降をご覧ください。



Check (評価)

◆ 鉄道安全監査の実施

鉄道安全監査

鉄道の安全管理体制が適切に確立され、実施されているかを確認するために、毎年、鉄道安全監査を実施し、安全管理体制の見直し、改善につなげております。

2022年度鉄道安全監査では、取締役社長以下、鉄道の安全確保について重要な役割を担う各管理者に対して、書類や記録を確認したほか、取締役社長、安全統括管理者および直接鉄道業務にかかわる管理者に対してはインタビュー形式による監査を行い、鉄道安全管理規程に基づく安全管理体制の構築状況について確認いたしました。また、現業長、現業社員へのヒヤリングを実施し、安全に関する取り組みの現況を確認いたしました。

2022年度鉄道安全監査においては、新型コロナウイルス感染症対策として、マスク着用、手指消毒等、基本的な対策を徹底的に講じ、実監査で実施いたしました。



▲取締役社長へのインタビュー



▲安全統括管理者へのインタビュー



▲管理者へのインタビュー形式による監査状況



▲書類や記録の確認



Act(見直し・改善)

◆安全管理体制の見直しと継続的な改善

安全管理体制全般の見直し

鉄道の安全管理体制が有効に機能しているかについて総括する安全管理体制全般の見直しを行い、年度末に安全管理体制の実態と課題を網羅した「安全管理体制全般の見直し報告書」を作成し、次年度の安全重点施策や各種取り組み等に反映させております。

なお、安全管理体制上の課題や指摘等に対する取り組み状況の途中経過を把握するため、年度途中に中間見直しを行い、年2回の見直しを行っております。



鉄道安全推進チーム

会議報告



鉄道事故防止対策委員会

社長報告

2023年度 鉄道本部 安全重点施策

基本とは何か、一人ひとりが再認識し、
安全・安定輸送を完遂する

- 【具体的な目標】
- 鉄道運転事故 有責事故0件の継続
 - 輸送障害 内部要因・外部要因とも減少
 - インシデント 0件の継続

- 【取組計画】
1. 「なぜそうなのか」を理解・意識し、基本動作を確実に実行する
 2. コンプライアンス・ハラスメントに関する理解を一層深めて実践する
 3. 次世代に引き継ぐハード・ソフトを構築する

次年度の安全重点施策

方針や
取り組みに
反映

2022年度 安全管理体制全般の見直し報告書
(年間総括)

2023年3月30日

京浜東北線株式会社
鉄道安全推進チーム

安全管理体制全般の 見直し報告書